

仕 様 書

- 1 購入物品及び数量
生体情報モニタリングセントラルシステム一式
- 2 納入期限
令和7年3月31日
- 3 納入場所
公立大学法人福島県立医科大学附属病院
- 4 購入内訳
別記のとおり
- 5 その他
 - (1) 運送、搬入、据付、試運転、機器調整等を行い、使用可能な状態で引き渡すこと。なお、これらに要する費用は受注者の負担とする。
 - (2) 必要に応じ、電気、ガス、排気等の接続を行うこと、なお、これらに要する費用は受注者の負担とする。
 - (3) 納入の際は、事前に納入予定日時を発注者の指示する職員と協議の上、指示する場所に設置すること。不要な梱包材等の撤去は、受注者が行うこと。
 - (4) 購入物品の運用及び管理に必要な事項について、最終検収前に発注者の指示する職員に対し、必要十分な知識及び技術について指導するものとする。ただし、その実施場所、時期、内容等は別に協議の上定め、指導に要する資材及び経費等は受注者が負担するものとする。
 - (5) 受注者は、併せて発注者の指示する職員に対して、購入物品の取扱、操作、日常の保守点検等について、必要な技術指導を行うものとする。
 - (6) 保証期間は納入後最低1年間とし、通常使用により故障・不具合が生じた場合は、速やかに無償で修理、調整を行うこと。

仕様書別記

I 件名

生体情報モニタリングセントラルシステム

II 調達物品構成一覧

- | | |
|----------------|-----|
| 1. セントラルモニタ更新 | 1 式 |
| 2. ベッドサイドモニタ更新 | 1 式 |
| 3. 画面付き測定モジュール | 8 式 |

III 性能機能に関する要件

1. セントラルモニタ更新

1-1 セントラルモニタ更新

1-1-1 セントラルモニタの更新は・ERICU、ER 初療、NICU、GCU、PICU、ICU の部門を対象とすること。

1-1-2 ERICU・NICU・GCU・PICU・ICU は 23 インチ以上のデュアルディスプレイ構成であること。

1-1-3 ER 初療は 23 インチ以上のシングルディスプレイ構成であること。

1-1-4 ERICU 及び ER 初療のセントラルモニタどちらからも患者の情報を個別に閲覧できる機能を有すること。

1-1-5 既存及び本調達により更新されるベッドサイドモニタと部門ごとにバイタル数値・生理学的波形、アラーム、およびイベントの受信、集約、処理、表示可能なこと。
既存ベッドサイド接続不可の場合既存相当台数（測定項目・表示サイズ・表示波形数）を新規にて本調達に含めること。

1-1-6 既存ベッドサイドモニタは本調達のセントラルモニタと接続できるバージョンまでアップグレードすること。不可の場合、既存ベッドサイドモニタ同等機種を既存台数分納入すること。

1-2 基本構成

1-2-1 セントラルモニタは、複数の患者の生理学的波形、パラメータ、アラーム、およびイベントの受信、集約、処理、表示、および配信できること。

1-2-2 セントラルモニタはマウス、キーボード、タッチスクリーンによる操作が可能なこと。

1-2-3 セントラルモニタのソフトウェアはMicrosoft Windows 10 相当以上の性能、機能を有するオペレーティングシステム上で動作するアプリケーションもしくはLinux オープンソースオペレーティングシステム上で動作するアプリケーションであること。

1-2-4 ディスプレイはカラー表示で、解像度 1920 ×1080 以上のものであること。

1-2-5 常時モニタリングを継続しながら任意患者の詳細情報参照が可能であること。

1-2-6 セントラルモニタ本体は、電源瞬断などへの対策が採られていること。

1-3 画面表示

1-3-1 アラーム発生時に、その患者枠内が青色等に反転表示されるバックライト表示が可能なこと。

1-3-2 各ベッドの使用状況に応じて手動もしくは自動的に患者表示セクタ部の表示領域を拡大・縮小し、よりの確な情報表示が可能であること。

1-3-3 基本画面上にて患者ごとの担当チームもしくは担当者を識別するためのケアグループ設定が可能であり、各患者名の脇に色フラグ表示されること。

1-3-4 患者名枠に色別で設定可能であること。

1-3-5 患者ごとに異なるモニタリング状況やアラーム設定に対応するため事前にプロファイルが設定可能であること。

1-4 不整脈解析機能

- 1-4-1 不整脈解析機能を有し、心電図を解析する機能を有すること。
- 1-4-2 25 種類以上の不整脈を検出、解析しアラームを発生させる機能を有すること。
- 1-4-3 心電図測定は、25 種類以上の不整脈解析機能を有すること。その際に、心房細動 (af) の検出を行うこと。

1-5 測定表示項目

- 1-5-1 ベッドサイドモニタにより測定された以下の測定項目の波形表示が可能であること。
- 1-5-2 心電図／呼吸曲線／脈波／観血血圧波形／CO₂ 分圧曲線／12 誘導心電図スナップ波形／外部機器からの波形情報の表示が可能であること。
- 1-5-3 ベッドサイドモニタにより測定された以下の測定項目の数値表示が可能であること。
- 1-5-4 心拍数／S T レベル／QT／QTc／呼吸数／非観血血圧値（最高・最低・平均）／観血血圧値（最高・最低・平均）／経皮的動脈血酸素飽和度／脈拍数／呼気終末 CO₂ 分圧ならびに外部機器よりの測定値表示が可能であること。
- 1-5-5 ベッドサイドモニタの不整脈設定並びに各パラメータの上下限值などのプロファイルを任意にセントラルからそれらの設定変更が可能なこと。

1-6 アラーム

- 1-6-1 アラームの重要度に応じてのレベルがあり、それぞれのレベル毎に音色と表示色を区別して知らせる機能を有すること。
- 1-6-2 アラームメッセージ領域に、常に優先順位が最も高いアラームが表示されること。また、現在のアラーム状態はリスト表示されること。
- 1-6-3 ある不整脈に関してアラームが発生した直ぐ後に、その下位にあたる不整脈アラームがならない機能を有すること。

1-7 アラーム・レビュー機能

1-7-1 アラーム波形または保存ストリップ波形をすべてのイベントリストとして順番に表示する機能を有すること。

1-7-2 アラームおよびイベント情報の監査のため、90 日間以上のイベントリスト保存並びに 50 日分の任意検索機能を有すること。

1-8 波形レビュー機能

1-8-1 患者 1 名につき最大 8 波形以上、最大 168 時間の連続波形等情報を入床時および退床後も保存しレビュー表示が可能な機能を有すること。

1-8-2 波形レビュー機能にて患者 1 名当たり ECG 波形以外の最大 20 波形の保存および参照が可能なこと。

1-9 記録機能

1-9-1 プリンタを有し、トレンドグラフや圧縮波形を出力する機能を有すること。

1-10 通信

1-10-1 NIBP に関して、セントラルから測定を開始可能であること

1-10-2 既存の部門システムに対して、国際標準プロトコルである HL7 の形式でデータ出力する機能を有すること。

1-10-3 HL7 で出力される情報には外部機器の情報をすべて含んだ形で送付可能であること。

1-11 セキュリティ機能

1-11-1 認証セッションのセキュリティを強化するプロトコルを採用していること。

1-11-2 セントラルモニタ～生体情報モニタ間のノード認証をサポートすること。

1-11-3 アプリケーションのホワイトリスト自動生成機能により、ホスト上でどのアプリケーションの実行を許可するかを制御できること。

2. ベッドサイドモニタ更新

2-1 ベッドサイドモニタ更新対象

2-1-1 ベッドサイドモニタ更新は GCU2 台と ER 画像診断機器エリアの 2 台を対象とすること。

2-2 基本構成

2-2-1 ベッドサイドモニタのディスプレイは 12 型以上のカラーワイド型液晶ディスプレイであること。

2-2-2 ベッドサイドモニタ本体と、ディスプレイは一体型であること。もしくは接続し一体型の形状で設置が可能であること。

2-2-3 感染防止のためベッドサイドモニタ本体は冷却用のファンを内蔵していないこと。またクリーニング、消毒を行いやすい形状であること。

2-2-4 ベッドサイドモニタは IP21 以上の防滴構造であり、鉛直に滴下する水による悪影響、および直径 12.5 mm 以上の外来固形物の侵入による悪影響に対する保護機構を備えていること

2-2-5 ベッドサイドモニタの消費電力は 70W 以下の省電力設計であること。

2-2-6 ベッドサイドモニタはタッチスクリーンで操作する機能を有すること。

2-2-7 ベッドサイドモニタはタッチスクリーンの機能を、一時的に機能しないようなロック機能を有すること。

2-2-8 万一のタッチスクリーン故障時に備え、ベッドサイドモニタはマウスによる操作が可能なこと。

2-2-9 ベッドサイドモニタは、患者タイプ（成人、小児、新生児）に合わせて、パラメータの処理方法や計算方法、および患者に適応される安全範囲やアラーム設定値を決定できる機能を有すること。

2-2-10 ベッドサイドモニタは、患者登録画面にて、患者名以外に、患者タイプの選択、ペーサーの有無性別、生年月日、身長、体重を登録できること。また情報が入力された場合、生年月日より年齢を、身長/体重より BSA を自動計算する機能を有すること。

2-3 画面表示

- 2-3-1 画面は、5 波形以上を同時に表示する機能を有すること。
- 2-3-2 画面は測定波や測定値の位置やサイズを設定可能な機能を有すること。
- 2-3-3 日本語で表示する機能を有すること。
- 2-3-4 画面は、アラームの設定値をそれぞれの数値項目の左側に、通常画面表示において表示できること。
- 2-3-5 画面はスクリーンをあらかじめ 20 種類以上設定ができ、2 ステップ以内の操作で簡単に画面を切り替えられること。
- 2-3-6 万一のタッチスクリーン故障時に備え、ベッドサイドモニタは、マウスによる操作が可能なこと。
- 2-3-7 画面表示は、同一画面上に任意に配置可能なアイコンキーを配備し、使用する機能をすばやく操作を行えること。
- 2-3-8 バイタルデータトレンドインジケータ機能を有すること。

2-4 アラーム

- 2-4-1 アラームについては、生体情報アラームとテクニカルアラームの 2 種類を有し、生体情報アラームについては、赤、黄など 2 段階以上の優先順位を有すること。
- 2-4-2 テクニカルアラームについて、生体情報アラームと同等の重大性を示すもの（ECG リード外れ等）については、赤または黄の生体情報アラームと同様な通知を設定可能な機能を有すること。
- 2-4-3 アラーム中断は 1、2、3、5、10 分で設定できること。
- 2-4-4 ISO/IEC 規格準拠 2003 および 2020 のアラーム音を設定できること。不可の場合 3 種類上の音色から設定できること。
- 2-4-5 アラーム発生時、画面上に色別アラームメッセージが表示されること。また複数のパラメータがアラーム状態である場合、それを示す記号を表示するとともに、メッセージが変更される機能を有すること。

2-4-6 アラーム発生時、モニタ画面以外でアラームを認識できるアラームランプを2つ以上装備し、各アラームに準じた表示色を表示できること。

2-4-7 アラームのオン/オフ操作、消音操作時刻を含むアラーム履歴を通算300件以上参照可能であること。

2-5 データ保存

2-5-1 モニタ本体に最大50パラメータの数値データを、5分間隔で48時間/1分間隔で24時間/12秒間隔で4時間分、保存する機能を有すること。

2-5-2 一定時間内に収集されたバイタルデータ（トレンド）をグラフ形式（グラフ表示）または表形式（数値表表示）で表示する機能を有すること。

2-5-3 レンド情報は、専用の画面に画面項目として埋め込まれた状態で表示したり、現在表示中の画面にトレンド・ウィンドウを重ねて開く機能を有すること。

2-5-4 画面トレンドの表示期間の設定を、30分、1時間、2時間、4時間、8時間、12時間の時間間隔で選択可能な機能を有すること。

2-6 モニタ本体のアプリケーション

2-6-1 モニタ本体で、血行動態、酸素化能、換気能を計算する機能を有すること。

2-6-2 各計算のレビュー・ウィンドウで、酸素化能レビュー、換気能レビュー、血行動態レビューの表示可能な機能を有すること。

2-6-3 画面上に、計算機が表示でき任意の数値計算が行えること。不可の場合別途外付けにて計算機を取り付けること。

2-7 安全性

2-7-1 情報セキュリティに対する対策を講じていること。

2-7-2 生体情報モニタとの暗号化機能は北米暗号化規格FIPS140-2を検証済みであること。不可の場合別途プロトコルにて対応していること。

3. 画面付き測定モジュール

3-1 画面付き測定モジュール

- 3-1-1 本体ディスプレイは、6.1インチ以上、解像度 800 x 480 ドット以上のカラーディスプレイであること。
- 3-1-2 搬送時の取り扱いを考慮し取っ手(ハンドル)が装備されていること
- 3-1-3 バッテリー状態を知らせるインジケータが付属しており、およそ残量時間が表示されること。
- 3-1-4 バッテリーによる連続使用は仕様上、5時間以上可能なこと。
- 3-1-5 バッテリーは特別な充電器を用いずに、ホストモニタ本体からの供給にて充電可能なこと。
- 3-1-6 心電図やS P O 2、非観血血圧等の患者ケーブルはベッドサイドモニタと共通して使用可能なこと。
- 3-1-7 搬送時には、ベッドサイドモニタから外してそのまま搬送用モニタとして使用できる機能を有すること。
- 3-1-8 搬送時を考慮し、心電図・呼吸、SP02、非観血血圧、体温は、一つのモジュールとして統合されていること。
- 3-1-9 統合モジュールは、無線機能を有しており、ホストモニタから取り外されて搬送中にも、測定データをベッドサイドモニタ画面に表示するとともに、セントラルモニタの同一セクタに統合して表示する機能を有すること。
- 3-1-10 電源供給が目視にて確認できるようインジケータが装備されていること。
- 3-1-11 マルチタッチスクリーンによる、1本または2本指でのスワイプ操作やタップ操作が可能なこと。
- 3-1-12 タッチスクリーンの機能を、一時的に機能しないようなロック機能を有すること。
- 3-1-13 耐衝撃対策等を講じていること。

- 3-1-14 患者タイプ（成人、小児、新生児）に合わせて、パラメータの処理方法や計算方法、および患者に適応される安全範囲やアラーム設定値を決定できる機能を有すること。
- 3-1-15 患者登録画面にて、患者名以外に、患者タイプの選択、ペースメーカーの有無、性別、生年月日、身長、体重を登録できること。また情報が入力された場合、生年月日より年齢を、身長/体重より BSA を自動計算する機能を有すること。”
- 3-1-16 モニタは、単体での仕様時に電源切断後に再投入されると、ECG 波形が 30 秒以内に表示され、またホストモニタに接続している場合は、ECG 波形が 45 秒以内に表示され再起動時間が短い。
- 3-1-17 院内搬送時のモニタは防滴防塵の対応がとられており、IEC60529 基準において IP32 以上の機能を有していること。

3-2 画面表示

- 3-2-1 5 波形以上の表示が可能であること。
- 3-2-2 各測定項目の表示色が選択できること。
- 3-2-3 モニタリング画面や操作パネルの表示は日本語であること。
- 3-2-4 どの画面からでもワンタッチでモニタリング画面に戻る事ができること。
- 3-2-5 アラーム表示は、アラームランプにて重要度に応じて 3 段階以上で区別して知らせる機能を有すること。
- 3-2-6 アラームの設定値をそれぞれの数値項目の左側に、通常の画面表示において表示できること。
- 3-2-7 横表示レイアウトを最大 5 種類以上設定が可能であること。また、搬送時に有用な、コンパクトでクランプ式のマウント金具を有すること。
- 3-2-8 2 本指で画面を左右にスワイプする操作で簡易に画面を切り替えられること。
- 3-2-9 設定された各スクリーンの呼称は、日本語で設定可能であること。

3-2-10 画面上に任意の時間を計測可能なように複数のタイマーが表示でき、それぞれのレベルやカウント方法が設定可能なこと。不可の場合別途タイマーを外付けで用意すること。

3-2-11 画面上のパラメータ表示項目に時刻クロックはデジタル表示が可能であること。

3-2-12 モジュールの接続状態が確認可能であること。

3-3 測定機能

3-3-1 心電図／呼吸／非観血血圧／SP02／観血血圧／体温の測定が行えること。

3-3-2 以下の測定項目の波形表示が可能であること。心電図／呼吸曲線／脈派／観血血圧波形。

3-3-3 心電図／呼吸曲線／脈派の各波形表示が行えること。

3-3-4 以下の測定項目の数値表示が可能であること。心拍数／ST レベル／QT／QTc／呼吸数／非観血血圧値（最高・最低・平均）／観血血圧値（最高・最低・平均）／経皮的動脈血酸素飽和度／脈拍数／体温。

3-3-5 心電図はST測定機能を有すること。

3-3-6 心電図の心拍測定範囲は、成人/小児：15～300bpm、新生児：15～350bpm 以上であること。

3-3-7 本体内に12誘導心電図データを保持可能かつその表示が可能であること

3-3-8 心電図測定は、25種類以上の不整脈解析機能を有すること。

3-3-9 除細動器同期出力に利用する ECG 出力の信号遅延時間は、30ms 未満であること。

3-3-10 呼吸数の測定範囲は、0～120rpm 以上であること。

3-3-11 観血血圧の測定範囲は-40～300mmHg 以上であること。

3-3-12 観血血圧の脈派より PPV パラメータを表示可能なこと。もしくは PVI の測定が可能なこと。

3-3-13 非観血血圧は成人、小児、新生児に対応する測定モードを有すること。

- 3-3-14 非観血血圧は、手動／自動／連続／シーケンスにて測定ができ、定時の測定間隔は変更できること。定時測定時には、時刻に同期した測定を行えること。
- 3-3-15 SP02 の脈拍数の測定範囲は 25～240bpm 以上であり、Masimo 社製ディスポセンサーを使用可能であること。
- 3-3-16 心拍数は 15～300bpm 以上の範囲でモニタリング可能な機能を有すること。
- 3-3-17 PVC レートは 0～300bpm 以上の範囲でモニタリング可能な機能を有すること。
- 3-3-18 QT 値は 200～800ms 以上の範囲でモニタリング可能な機能を有すること。
- 3-3-19 心電図の測定仕様は、ANSI/AAMI/IEC 60601-2-25:2011 に準拠していること。
- 3-3-20 心拍数のアラーム設定については、通常の上下限値に対して高度除脈、高度頻脈のアラーム設定が可能な機能を有すること。また高度除脈、高度頻脈は心拍アラーム下限値/上限値との差として設定出来ることに加えて、固定値としても設定可能な機能を有すること。
- 3-3-21 検出されたすべての不整脈アラームが出力されることによる混乱を防止し、重大性の低いアラームのためにより重大なアラームに気づかない危険性を排除するため、不整脈の種別により、3 種類以上に分類をして優先順位をつける、不整脈アラームチェーン機能を有すること。チェーン内で複数のアラームが発生した際に、最も優先度の高いアラームを出力されるアルゴリズムを有していること。
- 3-3-22 不整脈のアラームチェーンにおいて、特定のアラーム発生後に、同一チェーン内の優先順位が低い不整脈アラームを一定時間出力しないタイムアウト時間を設定可能であること。
- 3-3-23 心電図の測定において、マルチリード測定時に主誘導が電極はずれなどで測定不能となった場合、自動的に使用可能な誘導に主誘導を切り替える機能を有すること。
- 3-3-24 不整脈の解析状態を確認するため、拍動ラベルを表示する不整脈解析波形表示機能を有すること。
- 3-3-25 呼吸 (RR) は、成人/小児: 0～ 120 rpm の範囲で計測可能なこと。

- 3-3-26 無呼吸アラームは、10 秒から 40 秒の間で設定可能であること。
- 3-3-27 呼吸を検出するトリガポイントを自動ならびに手動でレベル設定可能な機能を有すること。手動検出を選択した場合、呼吸波形上に点線で検出レベル線が表示され、適切なレベルに設定する機能を有すること。不可の場合、インピーダンス自動認識側機能でも可とする。
- 3-3-28 呼吸を検出する誘導は I もしくは II の何れかから選択が可能であること。不可の場合、インピーダンス自動認識測定でも可とする。
- 3-3-29 SpO2 は 0～100%の範囲で測定が可能であること
- 3-3-30 SpO2 は脈波波形からの脈拍数測定は 30～300 b p m 範囲以上で測定が可能なこと。
- 3-3-31 SpO2 は酸素飽和度の変化に応じて QRS 音の音程が変化する機能を有していること。
- 3-3-32 SpO2 は Masimo raibow SET テクノロジーを搭載し、マシモ社製センサを外部インタフェース機器を使用せずに直接使用可能であること。
- 3-3-33 SpO2 アラーム設定においては、固定値を設定する標準的なアラーム遅延時間設定に加え、アラーム設定範囲逸脱の程度の大きさと継続時間からその重大性を評価し、その結果に応じてアラームを遅延させる機能を有すること。またその結果生じるアラーム遅延の程度を上下限值ごとに 3 段階以上で設定できる機能を有すること。
- 3-3-34 患者の呼吸状態悪化の初期徴候を検出するため、指定した期間に、指定した閾値（ Δ 閾値）を超える SpO2 値の低下が、指定した回数発生した場合にアラームを出力する 3D ディサチュ指標アラーム機能を有すること。
- 3-3-35 動脈血の拍動成分により発生する拍動信号の測定値を示す、循環数値（パーフェュージョンインデックス値）が測定時に表示可能であること。
- 3-3-36 後にトータルヘモグロビン濃度（SpHb）、動脈血酸素含量（SpOC）、カルボキシヘモグロビン濃度（SpCO）、メトヘモグロビン濃度（SpMet）、脈波変動指標（PVI）、アコースティック呼吸（RRac）を測定する機能拡張オプションを有すること。

3-3-37 SpO₂ 測定値の算出平均時間を 2 秒、4 秒、8 秒、10 秒、12 秒、14 秒、16 秒と 7 段階から選ぶことが出来ること。

3-3-38 SpO₂ 測定部の電撃に対する保護形式は安全性の高い CF 形であること

3-3-39 非観血血圧は各々以下の範囲での測定が可能であること。（収縮期血圧は、成人：30～ 270 mmHg、小児：30～ 180 mmHg、新生児：30～ 130 mmHg、拡張期血圧は、成人：10～ 245 mmHg、小児：10～ 150 mmHg、新生児：10～ 100 mmHg、平均血圧は、成人：20～ 255 mmHg、小児：20～ 160 mmHg、新生児：20～ 120 mmHg）

3-3-40 非観血血圧の測定に際し、患者タイプにより「成人」「小児」「新生児」のそれぞれに適応した最大測定時間、初期加圧値、過剰カフ圧設定値が設定されていること。

3-3-41 非観血血圧の測定から任意の経過時間で、誤認識を防止するために表示をグレイアウトもしくは消去することが可能であること。

3-3-42 体動アーチファクトが非常に少ない状態（鎮静状態など）の患者に、通常測定より短時間で非観血血圧測定を行う高速測定機能を有すること。

3-3-43 非観血血圧測定には、あらかじめ設定されたカフ圧までカフを膨張させて、静脈血を駆血し静脈血管を浮きあがらせ静脈ラインを確保できる、駆血モード機能を有すること。

3-3-44 非観血血圧測定時の心拍数は、40～300 bpm の範囲で計測ならびに表示可能であること。

3-3-45 非観血血圧測定部は、計量法に基づく計量検定における型式承認を受けていること。

3-3-46 非観血血圧測定部の電撃に対する保護形式は、安全性の高い CF 形であること。

3-3-47 非観血血圧測定は、電気メス使用時や除細動器の通電時の仕様に適し、IEC 80601-2-30 に準拠していること。

3-4 観血血圧測定

3-4-1 血圧は同時に 2 c h 以上の測定が可能なこと。

- 3-4-2 観血血圧測定は-40~360mmHg 範囲以上で測定ができること。
 - 3-4-3 観血血圧による脈拍数は、25~ 350 bpm の範囲で計測可能であること。
 - 3-4-4 血圧ラベルを、c h 毎に任意に選択可能であること。また、各々のラベルはケーブル接続後に変更可能であること。
 - 3-4-5 血圧ラベルは、24 項目以上の選択肢を有すること。
 - 3-4-6 血圧ラベルに応じて、血圧信号を処理する最適なアルゴリズムを選択する機能を有すること
 - 3-4-7 観血血圧のアラーム設定は、標準の上下限設定に加え、最上限血圧アラーム、最下限血圧アラームを設定可能な機能を有すること。
 - 3-4-8 観血血圧の回路フラッシュや採血などのアーチファクトに対して測定を一定時間中止し不要なアラーム動作をおこなわない機能を有していること。
 - 3-4-9 平均動脈血圧と頭蓋内圧の差を、脳灌流圧 (CPP パラメータ) を計算する機能を有すること。
- 3-5 体温測定
- 3-5-1 体温は 0~45°C 範囲以上で測定が可能なこと。
 - 3-5-2 体温ラベルが c h 毎に設定できること。
 - 3-5-3 体温ラベルは、12 項目以上の選択肢を有すること
- 3-6 データ保存
- 3-6-1 最大 16 パラメータを保存し、12 秒間隔のデータを 4 時間分、1 分間隔のデータを 24 時間分、5 分間隔のデータを 48 時間モニタ本体に 48 時間以上の患者データを保存する機能を有すること。
 - 3-6-2 アラームのオン/オフ操作、消音操作時刻を含むアラーム履歴を保存可能であること。
 - 3-6-3 既存重症系部門システム【フィリップス社製 PIMS】 (ERICU、ER 初療、NICU、GCU、PICU、ICU) にセントラルモニタよりデータ連携可能なこと。